

大阪教育大学 教育学部

学位プログラム

【 2021 】

目 次

学位プログラムとは	2
学修成果評価システムとは	3
養成する人材像に必要な資質・能力とは	4
初等教育教員養成課程	
幼児教育プログラム	6
小学校教育プログラム	9
学校教育教員養成課程	
小中教育プログラム	16
中等教育プログラム	20
特別支援教育プログラム	23
養護教諭養成課程	
養護教育プログラム	28
教育協働学科	
教育心理科学プログラム	32
健康安全科学プログラム	35
理数情報（数理情報）プログラム	38
理数情報（自然科学）プログラム	41
グローバル教育（英語コミュニケーション）プログラム	44
グローバル教育（多文化リテラシー）プログラム	47
芸術表現（音楽表現）プログラム	50
芸術表現（美術表現）プログラム	53
スポーツ科学プログラム	56
電子ポートフォリオ（履修カルテ・教育実習カルテ）操作マニュアル	59

学位プログラムとは

学位プログラムは、平成29年度学部教育より導入し、
各プログラムに定める到達目標（卒業時に身に付ける力）達成型の教育課程として、運用を行っています。
「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」及び
「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を一体的に策定のうえ、
卒業時に到達目標を獲得できることを念頭に置き、カリキュラムを実施することとします。

教員養成課程

教育協働学科

到達目標

- ①豊かな教養と広い視野
- ②学校教育の基礎的理解
- ③指導内容の理解と実践力※
- ④子どもへの対応の理解
- ⑤教職力量を自らひらく力

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教育理解
- ③協働力
- ④専門的知識・技能
- ⑤教育協働実践力

到達目標達成型 学位プログラム

3つのポリシーをコアとする
プログラムシラバス

卒業認定・学位授与の方針
(ディプロマ・ポリシー)

一体的な策定と各段階に
おける目標を明確化

入学者受入れの方針
(アドミッション・ポリシー)

教育課程編成・実施の方針
(カリキュラム・ポリシー)

学校種や専攻の特性に応じたプログラム

- 幼児教育プログラム
- 小学校教育プログラム
- 小中教育プログラム
- 中等教育プログラム
- 特別支援教育プログラム
- 養護教育プログラム

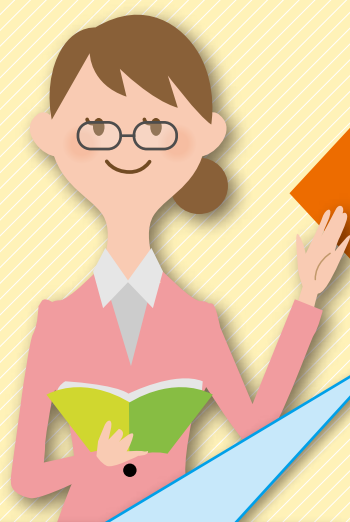
- 教育心理科学プログラム
- 健康安全科学プログラム
- 理数情報(自然科学・数理情報)プログラム
- グローバル教育(英語・多文化)プログラム
- 芸術表現(音楽・美術)プログラム
- スポーツ科学プログラム

学修成果評価システムとは

学業成績や学外実習、課外活動とボランティア活動などから構成される学修成果の蓄積と
到達目標への到達度を明らかにするポートフォリオの構築を行います。
学生自身が自己の学びをふり振り返り、次の学びのデザインを行うための新たなツールとして整備し、
主体的な学びを促進しようとするものです。

電子ポートフォリオをコアとする学生による学修成果評価システム

学修のふり振り返りと学びのデザイン



ポートフォリオを
用いた指導教員との
面談を通じた
指導・助言



学修プロセスの蓄積

授業の成績や、学外実習、
課外活動、ボランティア活
動における取組みの成果
をポートフォリオに蓄積
し、活用を支援します。

学修成果蓄積シート									
学年	学期	科目名	単位数	成績	評価	備考	達成度	到達目標	到達目標への到達状況
1年	1学期	基礎科目A	2.0	85	優		85	到達目標A1, A2, A3	到達目標A1, A2, A3に到達している。
1年	2学期	基礎科目B	2.0	80	良		80	到達目標B1, B2, B3	到達目標B1, B2, B3に到達している。
2年	1学期	専門科目C	2.0	90	優		90	到達目標C1, C2, C3	到達目標C1, C2, C3に到達している。
2年	2学期	専門科目D	2.0	85	良		85	到達目標D1, D2, D3	到達目標D1, D2, D3に到達している。

学修成果の可視化

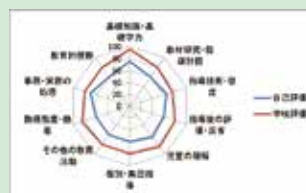
学位プログラムの到達目
標に対応する授業科目を
カリキュラムマップとして
整備の上、到達目標への到
達度をレーダーチャート
により明らかにします。



教育実践力の育成

キャンパスにおける学びを
もとに、学校における教育
実習や、インターンシップ
による活動を通じて、これ
からの教職に求められる
実践的資質・能力の形成
プロセスを確認します。

※教育協働学科の学生は、
教員免許状取得希望者のみ



養成する人材像に必要な資質・能力とは？

本学では、教員や教育協働人材に求められる資質・能力を次のとおり設定しています。

この資質・能力を基準として、履修カルテを活用し、授業やボランティア活動を通して学んだことをふり振り返り、

次の目標を設定するプロセスを通じて到達点を目指しましょう。

□豊かな教養と広い視野

- 人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。
- 世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

教員養成課程

□学校教育の基礎的理解

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- 子どもの心身の発達と学習の過程（特別な支援を必要とする子どもの心身の発達と学習の過程を含む。）についての基礎的な理解ができている。
- 学校教育に関する制度や経営的事項、並びに学校安全、特別なニーズのある子どもの教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- 教育課程の意義や編成、教育の方法や技術（情報機器の活用を含む。）についての理解をしている。

□指導内容の理解と実践力

- 小学校・中学校・高等学校の各教科、保育、特別支援教育の各領域を指導するために必要な内容についての理解を深め、学習指導方法の基本を身に付けている。
- 学習環境の整備やアクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりを行うことができる。
- 授業分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、学習指導や授業を構想することができる。

□養護実践力

- 養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。
- 健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。
- 子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。

□子どもへの対応の理解

- 子ども理解に基づいて、幼児・児童・生徒の指導と教育相談の理論及び実践的な方法について修得している。
- 特別なニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。
- 道徳教育及び指導法や特別活動の指導法について理解している。

□教職力量を自らひらく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

教育協働学科

□教育理解

- 社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- 教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的な知識を身に付けている。

□協働力

- 他者と協働して問題を分析し、その課題を整理することができる。
- 他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- 課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

□専門的知識・技能

- 所属する専攻・コースの分野に係る専門的知識・技能を備えている。
- 専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- 専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

□教育協働実践力

- 教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

初等教育教員養成課程

幼児教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、幼児を理解する力や豊かな表現力を身につけ、高度な実践力・専門性及び幼児教育の総合的な視点をもつ幼稚園教員を養成します。

幼児と出会う・幼児の発達を理解する・幼児教育の実践に参加する、の3つのステップを中心に、幼児とのふれあいの中から多くを学び、「幼児教育の現場と関わりつつ学ぶ」という創造的・体験的な側面を重視します。さらに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）学校教育の基礎的理解

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- ・学校教育に関する制度や経営的事項、学校安全並びに人権尊重、特別なニーズのある子どもの教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法や技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての理解をしている。

（３）指導内容の理解と実践力

- ・保育の各領域の内容についての理解を深め、情報機器や教材の活用を含めた保育の指導方法の基本を身に付けている。
- ・保育環境の整備、情報機器の活用、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や保育づくりができる。
- ・保育分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、保育を構想することができる。

（４）子どもへの対応の理解

- ・子ども理解に基づいて、幼児の指導の理論と教育相談に関する理論と実践的な方法について修得している。
- ・特別な教育的ニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。

（５）教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、幼児と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 学校教育の基礎的理解を深めるため、「幼小連携教育論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「発達と学習の心理学」、「特別なニーズのある子どもの教育」、「学校の役割と経営」や「幼児教育課程論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、保育内容の各領域に係る指導法科目、専門教育としての幼児教育専門科目などの科目を体系的に編成します。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「幼児理解と教育相談」などの教職専門科目、「幼児臨床学」などの幼児教育専門科目、「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成します。
- 教職力量を自らひろく力を育成するため、「幼児教育インターンシップ」、「教育実習」などの教職関連科目、「教職実践演習」などの教職専門科目などを体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開します。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校等で履修した教科・科目全般にわたる基礎学力を十分に修得した人
- 幼稚園等での教職に就くことを強く希望し、その意思を持ち続けることのできる人
- 幼児教育に深い関心を持ち、十分な教育実践力を身につけようとする意欲にあふれる人
- 幼児とのふれあいなどの体験的な活動を通じて学びたいと思っている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、さらに学校教育における今日的な課題について関心を深める。 また、幼稚園教諭として必要となる各領域に関する基礎的知識・技能を修得するとともに、教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 子どもの発達および学びの基礎的課程とその「みとり」、幼児の情動と社会性の発達、障がいのある子どもの理解と支援、保護者の支援などについて理解する。
2 回生	人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、幼稚園教諭として必要となる保育内容に関する基礎的知識・技能を総合的に修得するとともに、「幼児教育インターンシップ」による現場観察・実習を通じて、様々な業務の理解を含む教職実践に向けた基礎的知識・技能を習得する。 幼稚園教育要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の保育実践の方法と技術を身につける。そのために、附属幼稚園や公立幼稚園などでの観察の機会をなるべく多くもつ。
3 回生	幼稚園教育要領の特徴や変遷などをふまえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の幼児教育の動向から保育実践の方法と技術を身につける。また、実践的な模擬保育、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 「しょうがい共生」「多文化共生」「子育て支援」などをめぐって、知識の更新と、相互触発を行う力量をつける。 その中で、幼児理解と教育相談のための基本姿勢を確認するとともに、各理論の統合的理解や、方法のマルチ・メソッド的な適用をするための観点を学ぶとともに、感情労働についても理解を深める。 また、これまでの科目を修得した上で附属幼稚園での実習を行い、保育現場における経験から、成果と課題を再認識する。 その後、最新の保育課題や子育ての課題や対策実践についての知見を、各種メディアや専門研修機関の情報誌やサイトを通して主体的に収集する。そして、その知見を吟味し、自らの意見を述べあうことで、実践の主体者としての意識を涵養する。
4 回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得し、4年間の教職課程の集大成として、教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

小学校教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、小学校の全教科・領域に関する幅広い知識・技能・指導力や今日的な教育課題（ICT，発達障がい，多文化共生，英語を中心とした外国語能力）などに対応する能力と共に，幼児教育からの接続を理解した実践力の高い小学校教員を養成します。 また，児童を理解する力や基礎的な指導力を身につけ，特に幼児教育との接続を理解した現場実践力の高い教員を養成する昼間コースと，昼間の勤務経験や教育現場でのインターンシップ活動などの豊富な経験をもとに，豊かな人間性と社会性を備えた教員を養成する夜間コース（修学年限５年）があります。
--

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え，キャリア形成に向けた，ＩＣＴスキル，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）学校教育の基礎的理解 ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・学校教育に関する制度や経営的事項，学校安全並びに人権尊重，特別なニーズのある子どもの教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。），教育の方法や技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての理解をしている。
（３）指導内容の理解と実践力 ・小学校の各教科を指導するために必要なそれらの内容についての理解を深め，それらについての情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本を身に付けている。 ・学習環境の整備，アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる。 ・授業分析の基本を身に付け，教材研究を行いながら，学習指導や授業を構想することができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・子ども理解に基づいて，児童の指導，キャリア教育及び教育相談に関する理論と実践的な方法について修得している。 ・特別な教育的ニーズや，いじめ，不登校などの指導上の課題への対応方法を理解している。 ・道徳教育の理論及び指導法，特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法についての理解をしている。

(5) 教職力量を自らひろく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 学校教育の基礎的理解を深めるため、「幼小連携教育論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「発達と学習の心理学」、「特別なニーズのある子どもの教育」、「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、専門教育としての、教職や教育実践、教科教育からなる系列専門科目などの科目を体系的に編成します。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「生徒指導・進路指導論」や「教育相談の理論と方法」、「特別活動論（総合的な学習の時間の指導法を含む。）」や「道徳教育論」などの教職専門科目、「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成します。
- 教職力量を自らひろく力を育成するため、「学校インターンシップ」、「教育実習」などの教職関連科目、「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開します。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 小学校教育について、強い関心と問題意識を持つ人
- 小学校教育をめざすために必要な基礎学力を備えている人
- 明朗で協調性が富み、人とのコミュニケーションが図れる人
- 学校現場での豊富な体験や子どもとのふれあいなどを通じて学びたいと思っている人

◆各回生の到達目標（昼間コース）

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、さらに学校教育における今日的な課題について関心を深める。 また、小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得するとともに、教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童・生徒の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。
2 回生	人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、小学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 さらには、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。 学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身に付ける。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。
3 回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点を学ぶとともに、総合的な学習の時間の指導法についても学ぶ。 また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。
4 回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。 4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

◆各回生の到達目標（夜間コース）

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、さらに学校教育における今日的な課題について関心を深める。 また、小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 学校インターンシップによる学校観察を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。
3 回生	人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童・生徒の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。 教員が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。 今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付ける。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。
4 回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身に付ける。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点を学ぶとともに、総合的な学習の時間の指導法についても学ぶ。 小学校教諭に必要な学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 また、附属学校での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。
5 回生	教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。 これまでの科目を修得した上で協力校での実習を行い、学校現場における経験から、成果と課題を再認識する。

	5年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。
--	--

学校教育教員養成課程

小中教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

小中教育プログラムでは、豊かな教養と広い視野を持つとともに、小・中学校の教育に関する知識や技能を持ち、専門の教科などの指導力や授業実践力に優れ、小・中学校の連携を踏まえた指導ができる小学校教員を主に養成します。そのために、教養科目及び基礎的科目を修得した上で、教職に関わる科目を学ぶとともに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養い、教職インターンシップと基本実習などを接続させた4年間の実践的な教育活動に参画するとともに、自らが所属するコースにおいて、専門分野の学習を深めます。コースには、学校教育、国語教育、英語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、家政教育、保健体育、音楽教育、美術・書道教育があります。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）学校教育の基礎的理解 ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・学校教育に関する制度や経営的事項、学校安全並びに人権尊重、特別なニーズのある子どもの教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法や技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての理解をしている。
（３）指導内容の理解と実践力 ・小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校の教科や教科外の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。 ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる。 ・授業分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、学習指導や授業を構想することができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・子ども理解に基づいて、児童・生徒の指導、キャリア教育及び教育相談に関する理論と実践的な方法について修得している。 ・特別な教育的ニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。 ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法について理解している。

(5) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 学校教育の基礎的理解を深めるため、「小中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「発達と学習の心理学」、「特別なニーズのある子どもの教育」、「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、専門教育としての教育科学（教育学・心理学・道德教育学）や、教科内容の高度な理解に資する教科内容構成演習等のコース専門科目を体系的に編成します。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「生徒指導・進路指導論」や「教育相談の理論と方法」、「特別活動論（総合的な学習の時間の指導法を含む。）」や「道德教育論」などの教職専門科目、「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成します。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、「教職インターンシップ」、「教育実習」などの教職関連科目、「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開します。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目の基礎学力を十分に身につけた人
- 専門分野への関心があり、十分な学力と適性を持っている人
- 得意分野を中心に、小学校教員や中学校教員をめざすために十分な教育実践力を身につけようとする意欲あふれる人
- 教職に就くことを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
- 子どもたちの成長に関わることにやりがいと使命を感じることができる人
- 多様な年齢の人々とコミュニケーションを図る能力を身につけようとしている人
- 学校生活の経験を通して、学校や教育への親しみや関心を抱いている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、さらに学校教育における今日的な課題について関心を深める。 また、教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。観察実習において子どもに関わる経験を得ることで、教職インターンシップへの動機を持つ。 子どもの発達および学習の基礎的過程、障がいのある児童・生徒の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。
2 回生	人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 更には、教職インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。 学習指導要領を踏まえ、小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得し、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。 コースに応じた教科の専門的内容に取り組むための基本的知識・技能を習得する。 教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3 回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点を学ぶとともに、総合的な学習の時間の指導法についても学ぶ。 教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など生徒指導上の課題について理解する。 また、小学校教諭として必要となる教科や教育科学に関する専門的知識・技能を修得し、教材研究、学習指導案作成及び模擬授業を通じて、指導技術の更なる向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 コースに応じた教科の教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。 教職インターンシップや、附属学校や協力校での教育実習（基本実習）を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。

4 回生	教員になるために必要な専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。 教職インターンシップにおいて、教職の専門性を発展させることが望ましい。 4 年間の教職課程の集大成として、教員に必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。
------	---

中等教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、豊かな教養と広い視野を持つとともに、専門の教科を中心にした優れた教育指導力を持ち、中学校と高等学校の接続を踏まえて指導できる中学校教員・高等学校教員を養成します。そのために、教養科目及び基礎的科目を修得した上で、教職に関わる科目を学ぶとともに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養い、さらに、自らが所属するコースにおいて、専門分野の学習を深めます。コースには、国語教育、英語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、家政教育、技術教育、保健体育、音楽教育、美術・書道教育があります。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ＩＣＴスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）学校教育の基礎的理解 ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。 ・生徒の心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・学校教育に関する制度や経営的事項、学校安全並びに人権尊重、特別なニーズのある生徒の教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法や技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての理解をしている。
（３）指導内容の理解と実践力 ・中・高等学校の各教科の専門的知識・技能の修得とそれらを指導するために必要な内容についての理解を深め、情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本を身に付けている。 ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる。 ・授業分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、学習指導や授業を構想することができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・生徒理解に基づいて、生徒の指導と教育相談に関する理論と実践的な方法について修得している。 ・特別な教育的ニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。 ・道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法について理解している。

(5) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 学校教育の基礎的理解を深めるため、「人権教育論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「発達と学習の心理学」、「特別なニーズのある子どもの教育」、「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、各教科に係る指導法科目、専門教育としての教科内容の高度な理解に資する教科内容構成演習等のコース専門科目を体系的に編成します。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「生徒指導・進路指導論」や「教育相談の理論と方法」、「特別活動論（総合的な学習の時間の指導法を含む。）」や「道徳教育論」などの教職専門科目、「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成します。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、「教職インターンシップ」や「学校インターンシップ」、「教育実習」などの教職関連科目、「教職実践演習」などの教職専門科目などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開します。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目の基礎学力を十分に身につけた人
- 専門分野への関心があり、十分な学力と適性を持っている人
- 得意分野の専門的知見や技能を探究し、中学校教員や高等学校教員としての十分な教育実践力を身につけようとする意欲あふれる人
- 教職に就くことを強く希望し、その意志を持続させることのできる人
- 生徒たちの成長に関わることにやりがいと使命を感じることができる人
- 多様な年齢の人々とコミュニケーションを図る能力を身につけようとしている人
- 学校生活の経験をとおり、学校や教育への親しみや関心を抱いている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、更に学校教育における今日的な課題について関心を深める。 また、教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童・生徒の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。
2 回生	人権の尊重、生徒の生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 更には、学校インターンシップによる現場観察・実習を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。 学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、中・高等学校教諭として必要となる教科に関する基礎的知識・技能を修得し、教科力を高めるとともに、現代に求められる授業づくりの方法と技術を身につける。 道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 コースに応じた教科の教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3 回生	生徒理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点を学ぶとともに、総合的な学習の時間の指導法についても学ぶ。また、教師が行う生徒の指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など生徒指導上の課題について理解する。 さらに、中・高等学校教諭として必要となる教科に関する高度な専門的知識・技能を修得し、教材研究、学習指導案作成及び模擬授業を通じて、実践的な指導技術の更なる向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 附属学校や協力校での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。
4 回生	教員になるために必要な専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。 4年間の教職課程の集大成として、教員に必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。

特別支援教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、特別支援学校及び通常の学校における特別支援教育に携わる教員を養成します。特別支援教育の現場では、一人ひとりの子どもたちを包み込むような豊かな人間性と、どのような障がいにも対応できる幅広い専門性が求められています。本専攻では、子どもたちの能力や個性に応じた教育的支援の実践ができる教員の養成をめざします。さらに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ＩＣＴスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）学校教育の基礎的理解 ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・学校教育に関する制度や経営的事項、学校安全並びに人権尊重、特別なニーズのある子どもの教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法や技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての理解をしている。
（３）指導内容の理解と実践力 ・特別支援教育の各領域を指導するために必要な内容についての理解を深め、情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本を身に付けている。 ・学習環境の整備、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる。 ・授業分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、学習指導や授業を構想することができる。
（４）子どもへの対応の理解 ・子ども理解に基づいて、児童・生徒の指導及び教育相談に関する理論と実践的な方法について修得している。 ・特別な教育的ニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。 ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法について理解している。

(5) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 学校教育の基礎的理解を深めるため、「人権教育論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「発達と学習の心理学」、「特別なニーズのある子どもの教育」、「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、専門教育としての特別支援教育の高度な理解に資する特別支援教育専門科目を体系的に編成します。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「生徒指導・進路指導論」や「教育相談の理論と方法」、「特別活動論（総合的な学習の時間の指導法を含む。）」や「道徳教育論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、「学校インターンシップ」、「教育実習」などの教職関連科目、「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開します。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるかは、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目の基礎学力を十分に身に付けた人
- 専門分野への関心があり、十分な学力と適性を持っている人
- 特別支援教育に必要な教育実践力を身に付けようとする意欲にあふれる人
- 特別支援教育の教職に就くことを強く希望し、その意志を持ち続けることができる人
- 障がいのある子どもの成長に関わることにやりがいと使命を感じることができる人
- 多様な人とコミュニケーションを図る能力を身に付けようとしている人
- 学校生活の経験をとらえて、学校や教育への親しみや関心を抱いている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図り、さらに学校教育における今日的な課題について関心を深める。 また、特別支援学校教諭として必要となる特別支援教育に関する基礎的知識・技能を修得する。 教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。 子どもの発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童・生徒の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。また、障がい種ごとの観察実習や講義を通して、特別支援学校教諭として必要となる特別支援教育に関する基礎的知識・技能を修得する。
2 回生	人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。 また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに、特別支援学校教諭に必要な視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の技能や方法、通常の学校のユニバーサルデザインの授業等に対する基礎的知識・技能を身につける。 さらに、特別支援学校等の現場観察・体験実習を通して、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。 学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、今日の授業づくりの方法と技術を身につける。教材開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身につける。
3 回生	道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。 子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点を学ぶとともに、総合的な学習の時間の指導法についても学ぶ。 教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など生徒指導上の課題について理解する。 また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。 さらに、特別支援学校教諭に必要な視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の知識や技能及び方法に対する理解を深める。 これまでの科目を修得した上で、附属学校や協力校、特別支援学校での実

	習を行い，学校現場における経験から，成果と課題を再認識する。
4 回生	教員になるために必要な専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。 また，教職実践演習等を通して，特別支援学校教諭に必要な視覚障がい，聴覚障がい，知的障がい，肢体不自由，病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の技能や方法を統合し，専門的实践力を身につける。 4年間の教職課程の集大成として、教員に必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。

養護教諭養成課程

養護教育プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

養護教育プログラムでは、教育学の基礎の上に、医学・看護学・養護学など、幅広い専門分野の基礎知識と実践能力を備え、健康を保持増進する能力を子どもたちが獲得できるように、様々な機会を捉え支援する資質を備えた養護教諭を養成します。そのため、幅広い教養教育の基礎の上に立って、各専門分野の学習を深めるとともに、臨床（病院）実習、養護実習などをとおして実践能力の向上をめざします。さらに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ＩＣＴスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）学校教育の基礎的理解 ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。 ・学校教育に関する制度や経営的事項、学校安全並びに人権尊重、特別なニーズのある子どもの教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法や技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての理解をしている。
（３）養護実践力 ・養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。 ・健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。 ・子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。
（４）子どもへの対応の理解 ・子ども理解に基づいて、幼児・児童・生徒の指導と教育相談に関する理論及び実践的な方法について修得している。 ・特別な教育的ニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。 ・道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法について理解している。
（５）教職力量を自らひらく力 ・実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとる

ことができる。

- ・ 自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・ チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 学校教育の基礎的理解を深めるため、「人権教育論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「発達と学習の心理学」、「特別なニーズのある子どもの教育」「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 養護実践力を育成するため、「解剖生理学」、「公衆衛生学」、「学校保健」などの基礎系科目と「養護学」、「看護学」、「臨床医科学」などの応用系科目の専門教育としての養護専門科目を体系的に編成します。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「生徒指導論」や「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」や「特別活動論（総合的な学習の時間の指導法を含む。）」などの教職専門科目、「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成します。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、「教職インターンシップ」、「養護実習」などの教職関連科目、「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 養護教諭をめざすために必要な基礎学力があり、十分な教育実践力を身につけようとする意欲にあふれる人
 - 養護教諭になることを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
 - 子どもたちの健康な学校生活を支援することにやりがいと使命を感じる人
 - 人と明るく温かなコミュニケーションが図れる能力や個性を備えている人
- ※生物、化学を入学までに学習していることを前提として講義を行う

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	教養基礎科目と教職入門をはじめとする教職専門科目を通して、教職の意義、教職への動機づけ、さらに、学校教育における今日的課題について関心を深める。また、障がいのある子どもの理解と支援について理解する。 養護専門科目を通して、養護教諭として、からだの構造・機能、子どもの発育・発達に関する基礎的知識を修得するとともに、子どもの健康の保持増進を考えていく上で必要不可欠な基本的理念・知識を体系的に理解する。
2 回生	教職基礎・専門科目を通して、人権侵害や差別の現状、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につける。また、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。 養護専門科目を通して、保健指導や保健室経営等における養護教諭として必要な指導力の基礎を養う。 子どもの援助と指導に関して、看護学・精神保健学の基本的理論と技法・技能を修得する。
3 回生	道德教育の歴史および主要な道德教育理論・方法について理解し、道德教育に関する基礎的知識を修得する。また、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法を理解する。 養護専門科目を通して、専門的資質・能力を高める。健康相談活動（カウンセリング論）の知識・技能を修得する。救急処置実習・臨床実習を通して、実践的な更なる技能の向上を図り、養護実習の履修前に知識・技能を深める。養護実習を行い学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。
4 回生	養護教諭になるために必要な養護専門科目の履修と卒業研究を通して、更なる深い専門的知識と技能を修得する。 4 年間の集大成として、養護教諭に必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努め、養護教諭としての資質・能力を確実なものとする。

教育協働学科

教育心理科学プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、生涯教育学、心理学、社会福祉学といった専門諸科学を基盤とし、人間と社会のかかえるさまざまな課題を科学的に理解し、実践的にかかわることを通して、すべての人々が豊かで充実した社会生活を実現することをめざした共生社会の発展に貢献しようとする人材の育成を目的とします。そのため、「チーム学校」の中で教育活動を直接的に支援する専門性を有した「教育協働人材」を養成するとともに、家庭や企業など社会のあらゆる領域や場面でおこなわれる教育・学習活動を広く支援・主導し、教育活動に協働できる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ＩＣＴスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して教育・心理・福祉に関する問題を分析しその課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・生涯教育・心理・福祉分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、生涯教育学・心理学・社会福祉学に関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 生涯教育学、心理学、社会福祉学に関心をもつ人
- 高等教育レベルの生涯教育学、心理学、社会福祉学の学習に必要な基礎学力をもつ人
- 論理的に思考し、考えたことを他者にわかるよう明確に表現することができる人
- 将来、学校、家庭、地域社会における教育・学習活動を支援する仕事に就きたいと考えている人
- 図書館司書資格や社会教育主事任用資格を取得したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる生涯教育・心理・福祉分野に関する基礎的知識を修得する。本専攻で学ぶために必要な基本的な知識や技能を習得し，学修した知識・技術を主体的に実践する意識を育成する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる協働の理念や方法論とあわせて，専門分野の研究に必要な基礎的技法を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，教育協働人材として必要な基礎を養う。 地域や学校との協働を行う専門職として課題解決や連携を行う際に必要な知識や手法を学修する。
3 回生	教育協働人材として必要となる生涯教育・心理・福祉分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに教育協働人材として必要な問題解決実践力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。 プロジェクト学習，見学，インターンシップ等を通じて実践力を養う。
4 回生	4年間の教育課程の集大成として卒業論文を作成することで，教育協働人材として身に付けた知識や技能の到達点を確認する。課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力・コーディネート力を深める。

健康安全科学プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

子どもたちを健康で安全に育む教育環境は、様々な教育活動の基盤となる要素であり、今日の複雑な社会の中で、安全・安心、健康な教育環境づくりへの要望が高まっています。一方、健康と安全に関わる諸課題は社会の発展に伴い、ますます複雑化・多様化していることから、健康で安全な教育環境を幅広い視野で構築できる創意工夫に富んだ人材の育成が必要です。 本プログラムでは、学校の安全、心身の健康と安全、食の安全と衛生、地域の安全等、教育環境を巡る安全・安心、健康の諸課題を科学的に捉える力と諸課題に対応できる応用力を持ち、学校、地域住民組織、企業、自治体、NPOなどの多様な場において、健康で安全な教育環境の構築に貢献できる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して安全と健康に関する問題を分析し、その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・健康安全科学の分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、健康安全科学に関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 健康で安全な教育環境の諸課題に対し、強い関心と問題意識を持つ人
- 学校の安全、心身の健康と安全、食の安全と衛生、地域の安全等について、専門分野を横断して幅広い視野で学ぶ姿勢を持っている人
- 学校の安全、心身の健康と安全、食の安全と衛生、地域の安全等、教育環境を巡る安全・安心、健康の諸課題を科学的に捉える力と専門的知識を身につけたい人
- 学校および地域の多様な組織と協働し、健康で安全な教育環境の推進に貢献したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる健康安全科学分野に関する基礎的知識を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる健康安全科学分野に関する基礎的知識・技能を修得する。
3 回生	教育協働人材として必要となる健康安全科学分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要な問題解決能力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。

理数情報（数理情報）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

移り変わる現代社会を生き抜くために、様々な事象・現象に対する科学的な考え方が重要となっています。従って、それを指導・支援できる理系人材育成が、これからの教育・社会活動に不可欠です。本プログラムでは数理科学・情報科学の専門知識に加えて、理解力・思考力・データ分析技能・コミュニケーション能力を兼ね備えた「教育マインド」を持った人材を育成します。さらに、その技術・能力・方法論を学校や社会にフィードバックすることで、チーム学校を含む地域社会の中で学び続けることができる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え，キャリア形成に向けた，ＩＣＴスキル，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して数理科学・情報科学に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・数理科学・情報科学分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、数理情報に関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 未知の現象を探究し、その社会的意義を説明する意欲を持つ人
- 数理科学・情報科学に関する教育支援活動に興味がある人
- 数理科学・情報科学の有効な活用にアイデアを持つ人
- 科学技術・計算機分野の知識を活かして社会に貢献したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる数理情報分野に関する基礎的知識を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる数理科学・情報科学分野に関する基礎的知識・技能を修得する。
3 回生	教育協働人材として必要となる数理科学・情報科学分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要な問題解決能力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。

理数情報（自然科学）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

移り変わる現代社会を生き抜くために、様々な事象・現象に対する科学的な考え方が重要となっています。従って、それを指導・支援できる理系人材育成が、これからの教育・社会活動に不可欠です。本プログラムでは自然科学の専門知識に加えて、自然科学的な手法を用いた課題解決力を持ち、理解力・思考力・データ分析技能・コミュニケーション能力を兼ね備えた「教育マインド」を持った人材を育成します。さらに、その技術・能力・方法論を学校や社会にフィードバックすることで、チーム学校を含む地域社会の中で学び続けることができる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え，キャリア形成に向けた，ＩＣＴスキル，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して自然科学に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・自然科学分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，自然科学に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、自然科学に関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 教育現場、企業で必要な自然科学の基礎力とそれに関する表現力がある人
- 未知の現象を探求し、その社会的意義を説明する意欲を持つ人
- 自然科学に関わる教育支援活動に興味がある人
- 自然科学の有効な活用にアイデアを持つ人
- 科学技術分野のインストラクターやアドバイザーを目指している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる自然科学分野に関する基礎的知識を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる自然科学分野に関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，自然科学の専門的思考を行うために必要な基礎を養う。
3 回生	教育協働人材として必要となる自然科学分野に関する専門的知識・技能を修得するとともに社会の一員として連携・協働し，知識・技能を活用するために必要な問題解決能力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。自然科学の研究手法や実践力を養う。

グローバル教育（英語コミュニケーション）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、英語、コミュニケーション能力、人文社会学系学問に基盤を置く文化的リテラシー、教育に関わる学際的な関心に立脚する教育マインド、および、多様な他者と豊かに共生できる素養を身につけ、グローバル化が進展する社会において、学校や地域と協働して新たな教育領域と教育活動の創生ができる人材の育成、特に、グローバルに通用する英語コミュニケーション能力と英米的な自由な発想による創造性・論理性・積極性の育成を行います。
--

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・ 人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ＩＣＴスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・ 世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・ 社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・ 教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・ 他者と協働して英語コミュニケーションに関する問題を分析し、その課題を整理することができる。 ・ 他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・ 課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・ 英語コミュニケーション、英語学、英米地域研究、英米文学に係る専門的知識・技能を備えている。 ・ 専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。 ・ 専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・ 教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、英語コミュニケーションに関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高度な英語のスキルと広い視野を身につけ、グローバル化する社会において、地域や学校での教育・学習を支援することを望む人
- 英語を活かした職業について世界にはばたくことを望む人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる英語コミュニケーション、英語学、英米地域研究、英米文学に関する基礎的知識を修得する。 高度な英語 4 技能を身に付け、語学研修等に参加することにより、交換留学の基盤を作る。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる英語コミュニケーション、英語学、英米地域研究、英米文学に関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，英語コミュニケーション能力を社会における教育や学習の支援に活用するために必要な基礎を養う。 交換留学に応募可能な英語能力測定試験のスコアを獲得する。
3 回生	教育協働人材として必要となる英語コミュニケーション、英語学、英米地域研究、英米文学に関する専門的知識・技能を修得するとともに英語での学術論文の書き方を身に付ける。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。 海外で学び生活するのに十分な英語力や知識を身に付ける。
4 回生	4 年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。 英語で卒業論文が執筆できる。

グローバル教育（多文化リテラシー）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、優れたコミュニケーション能力を基礎に、人文社会学系学問を中心とした文化的リテラシー、教育に関わる学際的な関心に立脚する教育マインド、および、多様な他者と豊かに共生できる素養を身につけ、グローバル化が進展する社会において、学校や地域と協働して新たな教育領域と教育活動の創生ができる人材を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え，キャリア形成に向けた，ＩＣＴスキル，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して現代の教育および社会に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・多様な言語・社会・芸術文化に関連する分野の専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、多文化リテラシーに関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 日本・アジアやヨーロッパの文化に深い関心を持ち、将来、国際社会やグローバル化する地域社会、学校などで種々の教育活動に取り組むことを望む人
- グローバル化する社会が抱える課題に対して、多文化理解力とコミュニケーション能力を活用して、企業、地域、自治体などと連携・協働をすすめながら課題解決に取り組むことを望む人
- 多様な言語と文化について理解を深め、優れたコミュニケーション能力を基礎にしながら特色ある国語教育に関わろうとする人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる多文化リテラシーに関する基礎的知識を修得する。 日本語・日本文学，ドイツ語・ドイツ文学，フランス語・フランス文学，そして中国語・中国文学に関する基礎的教養を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる多文化リテラシーに関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，社会や人間の理解に必要な基礎力を養う。
3 回生	教育協働人材として必要となる多文化リテラシーに関して、より高度な専門的知識・技能を修得する。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4 年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。

芸術表現（音楽表現）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、音楽表現分野で芸術創造についての深い理解と高い専門能力を身につけるとともに、学校や地域社会と協働して新たな教育領域と社会文化活動の創生に意欲的に参画できる「教育マインド」を有した芸術表現者を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え，キャリア形成に向けた，ＩＣＴスキル，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して音楽表現と音楽表現教育に関する問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・音楽表現分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に開講します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、音楽表現に関する専攻分野科目を体系的に開講します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に開講します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 芸術に興味・関心を持ち、教育及び芸術文化の発展に幅広く貢献したい人
- 音楽表現分野で修得した専門領域の高度な表現能力を活かして、地域社会や学校教育現場で指導力を発揮したいと志す人
- 優れたコミュニケーション能力を有し、他の人々と協働し、多様な教育課題を解決したいと志す人
- 教育や社会における芸術表現の在り方について、実践的かつ持続的な活動を通して探求できる人
- 複雑化した現代社会において、人間らしく生きるための糧となる芸術の本質を追求・理解したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる音楽表現分野に関する基礎的知識を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。また音楽表現分野に関する専門的知識・技能を修得する。
3 回生	音楽表現分野に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに教育協働人材として必要となる企画・実践力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。更に演奏や創作活動を通して国際的な視野を持ち、音楽の指導力を備えた表現者としての自己を確立する。

芸術表現（美術表現）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、美術表現分野で芸術創造についての深い理解と高い専門能力を身につけるとともに、学校や地域社会と協働して新たな教育領域と社会文化活動の創生に意欲的に参画できる「教育マインド」を有した芸術表現者を育成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え，キャリア形成に向けた，ＩＣＴスキル，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働して美術表現活動と教育に関わる問題を分析し，その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・美術表現分野に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで，グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」、「教育総論」や「学校の役割と経営」、「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、専攻共通科目を体系的に開講します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目において、美術表現分野に関する専攻分野科目を体系的に開講します。
- 教育協働実践力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に開講します。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行われますが、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 芸術に興味・関心を持ち、教育及び芸術文化の発展に幅広く貢献したい人
- 美術表現分野で修得した専門領域の高度な表現能力を活かして、地域社会や学校教育現場で指導力を発揮したいと志す人
- 優れたコミュニケーション能力を有し、他の人々と協働し、多様な教育課題を解決したいと志す人
- 教育や社会における芸術表現の在り方について、実践的かつ持続的な活動を通して探求できる人
- 複雑化した現代社会において、人間らしく生きるための糧となる芸術の本質を追求・理解したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となる美術表現分野に関する基礎的知識を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となる美術表現分野に関する専門的な知識・技能を修得することにより，高度な美術表現を通じた地域・学校連携を主導的に推進する者としての必要な基礎を養う。
3 回生	教育協働人材として必要となる美術表現や地域連携プロジェクトに関する専門的知識・技能を修得するとともに、教育協働活動の実践演習を通して、社会的なニーズの把握や、それに応える企画・実践力を修得する。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。

スポーツ科学プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、本学科の特色である教育マインドを基盤にし、様々なスタイルの指導力を高めるための理論的・実践的課題に取り組むことで、優れたスポーツ実践力に基づいた指導者の養成を目指す。現代のスポーツ指導者は、学校教育を中心とした多様なスポーツ場面及び公共スポーツ、スポーツ関連産業など、生涯学習社会をめざすさまざまな社会的背景や年代の人々のスポーツのニーズに応えることが求められている。そのため、求められる指導の基盤となる力を、教育マインドとし、中でもスポーツ指導者にとって最も重要である子供たちの育成・指導という課題を中心として、現代教育の理解、そして汎用基礎力及び協働力を学び、同時に優れた運動技能や幅広い運動経験に基づく理論的な基盤と指導力（コーチング）を持った人材育成を目的とする。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野 ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ＩＣＴスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
（２）教育理解 ・社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
（３）協働力 ・他者と協働してスポーツに関する諸問題を分析し、その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身につけている。
（４）専門的知識・技能 ・スポーツに係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。
（５）教育協働実践力 ・教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目，体育科目，ＩＣＴ科目を体系的に編成します。
- 教育の理解を深めるため，教育基礎科目における「教育基礎セミナー」，「教育総論」や「学校の役割と経営」，「学校安全」などにより体系的に編成します。
- 協働力を育成するため，専門教育科目に教育協働科目を開設し，「教育協働概論」，「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目，専攻共通科目を体系的に編成します。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため，専門教育科目において，スポーツ科学に関する専攻分野科目を体系的に編成します。
- 教育協働実践力を育成するため，専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」，「外国語実践演習」，課題解決型学習（ＰＢＬ）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成します。
- 各授業は，講義・演習・実験・実習などの方法により展開されます。
- 成績評価は，全学共通の評価基準を明示の上，プレゼンテーション，レポート，試験など，多様な方法により行われますが，どのように成績に反映されるか，シラバスに明記しています。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い，授業改善に取り組んでいます。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- スポーツ教育について強い関心と意欲を持つ人
- 子どもの育成に取り組むスポーツ指導者をめざす人
- 学校や地域スポーツの指導者をめざす人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。 教育協働人材として必要となるスポーツに関する基礎的知識を修得する。
2 回生	教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。 教育協働人材として必要となるスポーツに関する基礎的知識・技能を修得するとともに今日的な課題について関心を深め，スポーツ指導者・実践者として必要な基礎を養う。
3 回生	教育協働人材として必要となるスポーツに関する専門的知識・技能を修得するとともに、スポーツ指導者及びチーム学校の一員になるために必要とされる対応力を養う。 また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，外国語実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。
4 回生	4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題解決型学習（PBL）を通じて，教育協働の実践力を深める。 スポーツ場面に実践者、指導者として立つための自覚と自信を育み、自ら考え、求め、学んでいく姿勢等、習得したことを実践場面に活かすことができる。

電子ポートフォリオ(履修カルテ・教育実習カルテ) 操作マニュアル

履修カルテは、大教 UNIPA 上のポートフォリオから利用することができます。学習履歴シート、学修成果評価シート及び教職実践演習シートの3つのシートで構成されています。本マニュアルでは、履修カルテ及び教育実習カルテの操作方法について説明します。

< 1. 履修カルテ利用の流れ >

学 生		教 員	
4 月初旬 前期授業開始時	【学修成果評価シート】 当年度前期の学習や卒業後の目標を入力します。		
9 月中旬 前期成績通知後	【学習履歴シート】 前期に履修した授業科目の学習のふりかえりを入力します。		
9 月下旬～ 10 月上旬		【学修成果評価シート】 指導教員が学生の前期の目標および学習のふりかえりを確認し、コメントを入力します。	
10 月初旬 後期授業開始時	【学修成果評価シート】 当年度後期の学習や卒業後の目標を入力します。		
3 月中旬 後期成績通知後	【学習履歴シート】 後期（通年含む）に履修した授業科目の学習のふりかえりを入力します。 【教職実践演習シート】 自己評価（1 から 4）を行います。		
3 月下旬～ 4 月上旬		【学修成果評価シート】 指導教員が学生の後期の目標および学習のふりかえりを確認し、コメントを入力します。	
その他（随時）	【学修成果評価シート】 当年度中に学外実習・ボランティア経験等があれば、状況を入力します。		

【学修成果評価シート】



大教 UNIPA にログインし、「ポートフォリオ」>「学修成果評価シート」を選択します。

学修成果評価シート

学修成果

量かな教養と広い視野

学校教育の基礎的理解

指導内容の理解と実践力

子どもへの対応の理解

教職力量を自らひらく力

1年生

2年生

3年生

4年生

学修成果

成果指標	1年生	2年生	3年生	4年生
量かな教養と広い視野	65%	75%		
学校教育の基礎的理解	21%	39%		
指導内容の理解と実践力	26%	49%		
子どもへの対応の理解	40%	80%		
教職力量を自らひらく力	0%	0%		

全項目の学修成果の達成度が90%以上となるように努力しましょう。

授業以外の実習やボランティア活動の状況

時期	内容	削除
2017年度		削除
2018年度		削除

目標設定と指導教員のコメント

年度	学期	目標設定	指導教員コメント	指導教員名
2017年度	前期			
2017年度	後期			
2018年度	前期			
2018年度	後期			

「学修成果評価シート」のタブを選択します。学期の初めに「目標設定」を入力します。学外実習やボランティア経験等があれば、「授業以外の実習やボランティア活動の状況」に入力します。

レーダーチャートは、各 DP（成果指標）と授業科目を対応させ、授業科目の履修状況に応じてレーダーチャートが拡大していく仕組みとなっています。

【学習履歴シート】

「ポートフォリオ」＞「履修カルテ」を選択します。

学習履歴シート		教養実習履歴シート		学修成果評価シート				
● 履修科目の履修状況		評価欄の記号の内容		D＝不可 E＝出席日数不足 F＝試験欠席 H＝レポート・作品不提出 I＝要請せず J＝出席日数不足及び試験欠席 K＝出席日数不足及びレポート・作品不提出 L＝試験欠席及びレポート・作品不提出 M＝出席日数不足、試験欠席及びレポート・作品不提出				
科目区分	授業科目名	単位数	修得年度	学期	担当教員名	満点	評価	学習のふりかえり
教養基礎		1.0	2017	前期		68	可	
		1.0	2017	前期		78	良	
		2.0	2017	前期		90	秀	
		2.0	2017	前期		79	良	
		2.0	2017	前期		88	優	
		2.0	2017	後期		64	可	
		2.0	2017	後期		85	優	
		2.0	2017	後期		63	可	
		2.0	2017	後期		86	優	

各学期の成績通知後に、履修した授業科目の「学習のふりかえり」を入力します。

【教職実践演習シート】

教職実践演習シートでは、ふりかえりと目標の設定を効果的に行うことができるよう、教職に求められる資質能力を4つの指標と27の項目で提示しています。

4つの指標と27の項目を手掛かりに、教科・教職科目、ボランティア活動等を通して学んだことをふりかえり、自らの到達点と課題を明らかにしましょう。

学習履歴シート			教職実践演習シート			学習成果評価シート		
必要な資質能力についての自己評価			自己評価基準 4＝非常に良い 3＝良い 2＝まあ良い 1＝良くない					
中項目	小項目	指標	自己評価 (四生)					
学校教育の基礎的理解	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎的な理解ができていますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	教職の意義	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	人権教育	人権教育の意義及び必要性についての基礎的な理解ができていますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	子どもの発達に関する理解	子ども理解のために必要な発達に関する基礎的な理解ができていますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的事項に関する基礎的な理解ができていますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	学校安全・特別なニーズのある子どもの教育・英語教育	学校安全・特別なニーズのある子どもの教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けていますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	教育課程の構成及び方法に関する基礎理論・知識	教育課程の構成及び教育の方法や技術についての基礎的な理解ができていますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		
	情報機器の活用	学校における情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	1年生	2年生	3年生	4年生		

「教職実践演習シート」のタブを選択します。

各年度の終わりに27の項目それぞれについて自己評価（1から4）を行います。

＜ 2. 教育実習カルテ利用の流れ：平成 29 年度以降入学生のみ利用可＞

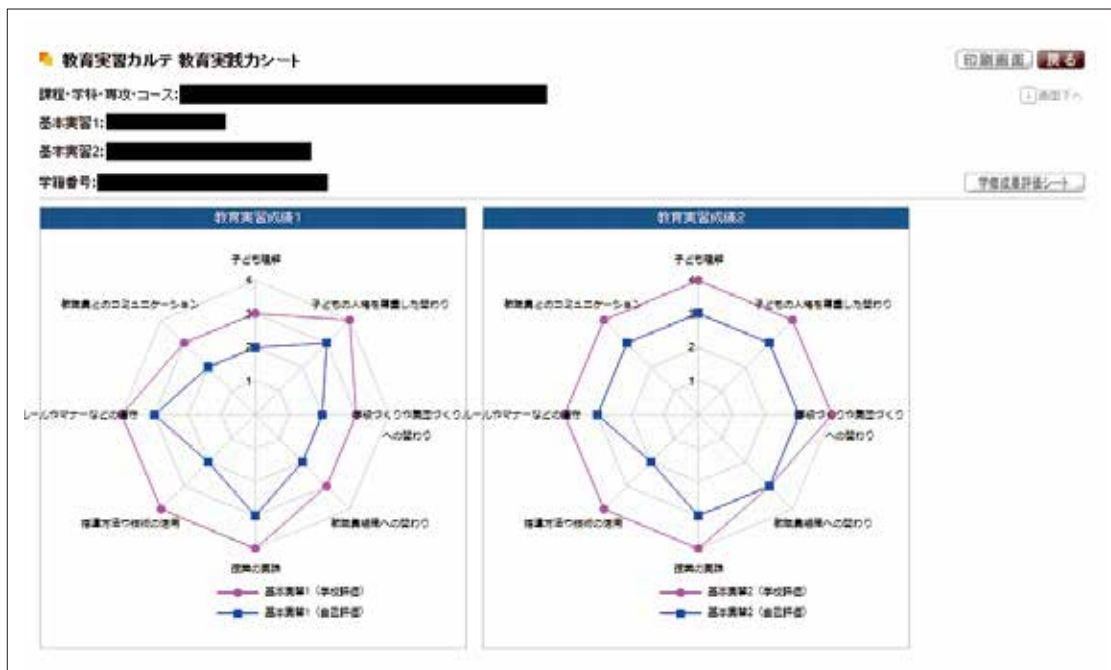
	学 生		教 員
実習校や活動を行う学校園が決まったとき	【教育実習・サポート活動歴】 教育実習・学校インターンシップ・学校サポート活動を行う年度，科目名，実習（活動）校名，期間を入力します。（科目名：教育実習と学校インターンシップ科目は履修科目，それ以外は学校サポート活動）		
			【教育実習・サポート活動歴】 指導教員が学生の実習（活動）校等を確認します。
教育実習・学校インターンシップ・学校サポート活動後	【教育実習・サポート活動歴】 実習等を行った年度，科目名，実習（活動）校名，期間を入力（更新）します。		
	【教育実習評価欄】※教育実習のみ 実習終了後 1 週間程度を目途に自己評価（1 から 4）を入力します。		【教育実習・サポート活動歴】 指導教員が学生の教育実習・サポート活動歴（実習を行った年度，科目名，実習（活動）校名，期間）を確認します。
教育実習の学校評価開示（事後面談） 前期 8 月 後期 1 月頃	【教育実習評価欄】※教育実習のみ 学校評価（1 から 4）と自己評価の違いを確認し，指導教員とふりかえりを行います。		【教育実習評価欄】※教育実習のみ 指導教員が学生の自己評価を確認します。
			【教育実習評価欄】※教育実習のみ 指導教員が学校評価と学生の自己評価の違いなどを確認し，事後指導（事後面談）に活用します。

【教育実習評価欄】・【教育実習・サポート活動歴】



「ポートフォリオ」>「教育実践力シート」を選択します。(下記の図内の教育実習評価欄の評価項目等は平成 29 年度入学生より改訂されます。)

履修した教育実習について自己評価と学校評価が反映されたチャートが表示されます。



■ 教育実習評価欄

	評価項目	基本実習1 自己評価	基本実習1 学校評価
実習態度	実習態度	3 ▼	4
	児童等との関わり	2 ▼	3
学習指導	学習活動の理解	3 ▼	4
	専門知識	2 ▼	3
総合評価	総合評価	3 ▼	4

	評価項目	併修実習1 自己評価	併修実習1 学校評価	併修実習2 自己評価	併修実習2 学校評価
学習指導	基礎知識・基礎学力	3 ▼	4	2 ▼	1
	教材研究・指導計画	4 ▼	3	3 ▼	2
	指導技術・態度	3 ▼	2	4 ▼	3
	指導後の評価・反省	3 ▼	2	2 ▼	4
児童・生活指導	児童の理解	2 ▼	3	3 ▼	4
	個別・集団指導	2 ▼	3	1 ▼	2
	その他の教育活動	2 ▼	3	3 ▼	3
実習態度	勤務態度・熱意	4 ▼	2	2 ▼	2
	事務・実務の処理	3 ▼	4	3 ▼	4
	教育的視野	3 ▼	4	4 ▼	3

自己評価基準 4=非常に良い 3=良い 2=まあ良い 1=良くない

教育実習後に自己評価を行います。自己評価（1から4）を選択してください。

■ 教育実習(インターンシップ含む)・サポート活動歴

行追加

履修(活動)年度	科目名	校名	期間(開始)	期間(終了)	削除
2014年度	インターンシップ1	大阪市立 ○○小学校	2014/10/1	2014/10/15	削除
2015年度	インターンシップ2	枚方市立 ○×小学校	2015/9/1	2015/9/15	削除
2015年度	教育実習(中学)	大阪市立 ○○中学校	2015/10/1	2015/10/31	削除
2015年度	教育実習(高校)	私立 ○○高等学校	2015/11/1	2015/11/30	削除

登録

「行追加」を選択すると当年度の入力欄を一行追加できます。実習を行った年度，科目名，校名，期間を入力します。

